

第3回石岡地域市民医療懇談会【会議録全文】

1 開催日時 平成30年10月31日（水） 午後7時～午後9時

2 開催場所 石岡市民会館 ホール

3 出席者 総数 489 人

(1) パネラー

今泉文彦委員（会長）、柏木史彦委員（副会長）、坪井透委員、島田穰一委員、岡野孝男委員、中根光男委員、市村文男委員、見坂恵美子委員、三輪挺子委員

(2) 事務局

石岡市保健福祉部健康増進課、かすみがうら市保健福祉部健康づくり増進課、

小美玉市保健衛生部健康増進課

(3) 傍聴者

国・県議員、市議会議員、区長、民生委員、教育関係、関係団体代表者ほか

4 配布資料

- ・第3回石岡地域市民医療懇談会次第
- ・資料01 これまでの石岡地域市民医療懇談会の要旨等
- ・第3回石岡市民医療懇談会アンケート

5 協議事項

(1) 10年後を見据えた地域医療について考える

6 会議録 全文

事務局：武井課長

定刻となりましたので、ただ今から第3回石岡地域市民医療懇談会を開会いたします。

本日の懇談会は、シンポジウム形式で開催となります。本日のパネラーは、3市の市長及び議長、医療関係者の代表として石岡市医師会長、そして市民代表の計9人となります。懇談会に先立ちまして、本日の懇談会開催にあたり、祝電をいただいておりますのでご披露させていただきます。「第3回石岡地域市民医療懇談会のご盛会を心よりお祈り申し上げます。関係各位の日頃よりのご尽力に深く敬意を表するとともに近隣3市合同の地域医療の発展のため、なお一層連携を密にし、更なるご活躍を期待しております。ご参会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げお祝いの言葉といたします。衆議院議員国光あやの様」、同じく衆議院議員青山大人様、以上でございます。ありがとうございました。

それでは、次第に基づき、懇談会を進めさせていただきます。本日の懇談会は、事前周知のとおり、一般公開となっており、報道機関等による写真撮影等も想定されますので、ご理解とご協力を宜しく願います。また、本日お配りした資料の中に、アンケート用紙がございますので、お帰りの際に回収箱に入れていただきますようお願い申し上げます。そのほか、石岡市民の方にお知らせいたします。本日の懇談会は、生涯現役プラチナ応援事業となっておりますので、受付の際、まだスタンプを頂いていない方は、お帰りの際に、会場出口付近にあります受付窓口にお立ち寄りください。

それでは、開会にあたり、石岡地域市民医療懇談会の会長であります、石岡市長今泉文

彦からご挨拶を申し上げます。

今泉会長

皆さま、こんばんは。大変お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。開会に先立ちまして、一言ご挨拶申し上げたいと思います。本年度の茨城県知事
の予算の発表において、医師の確保が今年最大の課題であるということをおっしゃって
ました。石岡市においても同じでありまして、今、石岡市においては医師の確保に関し
ては非常ベルが鳴っているというような状態ではないかと思っております。この市民医療懇
談会ですけれども、一般公開で今回開催しましたけれども、今までに2回開催してまい
りました。かすみがうら市、石岡市、小美玉市の3市の首長、そして議長さん、医療関係者、
市民の代表の方、それぞれの立場からご意見をいただいた訳でありますけれども、情報の
共有を図り、まずは現状を知っていただくということが第一の目的であると思いま
す。そして、今後どういった手立てがあるのか、そういったことを検討していくための場
でもあります。第3回での懇談会では、10年後を見据えた地域医療の在り方、これまで課
題として挙げられました産科・小児科・緊急診療、その3つについて現状を踏まえて、10
年後を見据えてどうするかといったこと、さらには一定の受け皿となる病院の整備など
具体的な方策について話し合っていきたいと思っております。みなさんと共に医療の
あるべき姿について考えていきたいと思っておりますので宜しく願いいたします。甚
だ簡単ですけれども、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ宜しく願
いいたします。

事務局：武井課長

続きまして、3の協議事項に入りたいと存じます。議事の進行につきましては、当懇談会要綱第6条により、今泉会長にお願いいたします。

議長：今泉会長

はい、それでは、議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

本日の懇談会の協議内容等につきましては、あいさつでも申し上げました通り、「10年後を見据えた地域医療を考える」をテーマに、当石岡地域が目指すべき地域医療の姿について、具体的な方策を検討していくこととなっておりますので、皆さんからの忌憚のないご意見を宜しくお願いしたいと思います。それでは、議事に入らせていただきます。

本日の懇談会は、第2回目の懇談会から2か月を経過し、今回、初めて傍聴いただく方もいらっしゃると思いますので、1回目、2回目のまとめについて事務局からご説明願います。

事務局：飯田補佐

それでは、これまでの懇談会の内容につきまして、振り返り説明をいたします。資料1をご覧ください。

第1回の懇談会では、石岡地域の医療体制の現状、課題等について、情報の共有を図りました。まず、茨城県の人口10万人対医師数は、全国ワースト2位となっています。県内

に9つある二次保健医療圏でみてみますと、石岡市とかすみがうら市は、土浦市と土浦医療圏に属し、小美玉市は、水戸市のほか4市町とともに、水戸医療圏に属しており、どちらの医療圏も、人口10万人対医師数は、県内では上位になっていますが、市単位でみると、石岡地域の3市は、いずれも全国平均の251.4人の半分以下と、医師不足が深刻な状況になっています。また、石岡市医師会管内の医療機関、特に石岡市におきましては15年以上開業がなく、ここ10年で5件が廃業しており、医師会会員の平均年齢が63歳と医師の高齢化も進んでいることから、このままでは、市民が安心して医療を受けられる体制を確保できるか危惧される状況になっています。

次に、石岡市、かすみがうら市、小美玉市、3市の緊急診療についてございます。

円グラフをご覧ください。こちらは内科又は小児科の緊急診療を受診した石岡地域、3市の患者数のデータとなっております。グラフからは、昨年度、「石岡市緊急診療」を利用した総患者数のうち、石岡市民の利用が6割を超えますが、小美玉市や、かすみがうら市の市民も一定の利用があることが明らかになりました。次に、石岡地域の小児科・産婦人科の医師数ですが、表にありますように、非常に少なく、特に、産科を取り扱う医療機関は、現在、石岡地域にない状況です。

以上のようなことから、第1回の懇談会では、産科・小児科・緊急診療の医師確保が緊急の課題とされました。

2ページをご覧ください。第2回懇談会では、他市の医師確保に係る事例や先進事例などを参考に、様々な意見が交わされました。具体的には、医師確保対策として、奨学金な

どの修学資金援助制度や、大学の医学部へ寄附金を支払い、医師を派遣してもらう寄附講座などがあるが、実際、それらを行うためには、一定規模の受け皿が必要不可欠となり、つまりは、スキルを学べる施設・設備、そして指導医のいる病院がないと医師の確保及び養成は困難であるとの意見などがありました。これにつきましては、イメージ図をご参照ください。また、病院等の整備には、医師会だけでなく、行政の協力と、市民の後押しが必要との意見がありました。

さらに、3つのグラフにありますように、先ほど説明しました緊急診療だけでなく、学校の健診や乳幼児健診など、予防医療についても、石岡市医師会の医師が支えている状況が明らかになり、石岡市、かすみがうら市、小美玉市と3市、それぞれ事情は違っていますが、共通していることは医療の大切さと、それを石岡市医師会が支えていることを再認識するに至りました。

これまでの懇談会の主な内容としましては、以上でございます。

議長：今泉会長

ただいま説明がありましたけれども、第1回の懇談会では当該地域の医師不足と医師の偏在化、医師の高齢化などもあり、今後、産科・小児科・緊急医療の医師確保が緊急課題とされ、第2回では、医師確保の対策には、奨学金などの修学資金援助制度や大学の医学部へ寄附金を支払い、医師を派遣してもらう寄附講座などがあるが、実際、それらを行うためには、一定規模の受け皿が必要不可欠となる。スキルを学べる施設・設備、そして指

導医のいる病院がないと医師の確保及び養成は困難であるということが分かった訳であります。そして、筑西市と桜川市の事例も現在進行している訳でありますけれども、病院等の整備には、医師会だけではなく、自治体の連携、国・県の協力及び市民の後押しが必要であることが明らかになりました。さらに別の視点からは、石岡市医師会は、産科・小児科及び緊急診療のみならず、学校での健康診断や地元企業での健康相談など、学校医や産業医として地域医療を支えていることが分かった訳であります。それでは、これまでの懇談会で把握した地域医療の現状や他市の事例等を参考に、パネラーの皆様から、ご意見をお伺いしたいと思います。それでは、まず医師会長、宜しいですか。

柏木委員

石岡市医師会長の柏木です。過去の第1回・第2回の懇談会では、様々な石岡市の医療の現状について、色々問題点を指摘させていただきました。今現在、医師会では緊急診療所を運営している訳ですけれども、少ない人数で休日の前日、それから休日の夜間に限られている訳で、実際、例えば、今日、この水曜日の夜、小児を受け入れてくれる病院は今、石岡・小美玉・かすみがうらには1件もない訳です。また、医師会員が全て緊急診療所に参画している訳ではなくて、あくまで手上げ方式といいますか、有志がやっていた訳ですけれども、先ほど話にあったように高齢化が進んで、1人抜け2人抜けしているうちに、今実際に医師会の中で緊急診療所へ参画しているお医者さんは4分の1ほどしかいません。これも徐々に減りつつあります。本当は毎日夜間緊急診療をして、発熱の子供など、土浦協同病院まで行かなくていい患者を受け入れられたら良いんですけれども、とてもそれだ

けの余力はありません。

もう1つ、昨年産科がなくなりました。現在、石岡市・かすみがうら市・小美玉市、全部含めても婦人科のお医者さんは2人しかいないです。産科がなくなりましたが、この2件のお医者さんで妊婦健診を実施している訳です。ただこの2人の先生も後継者がいないということと、1人はもう70歳を超えられて、もう1人の先生も私よりは上ということで、10年を見据えるとすれば10年を超えないうちに妊婦健診すらできなくなってしまうのではないかと心配しています。妊婦健診は今4、5回あると思うんですけど、土浦協同病院まで妊婦健診に行くと、協同病院に行って帰るのに、行かれたことある方は分かると思うんですけど、下手すると4、5時間待たされるということもあります。妊婦健診のために、数時間もかけて重いおなかを抱えて行くのは、とても考えられないことだと思います。今現在、妊婦健診をしてもらっていて、お産は協同病院で良いやと思っている方いらっしゃると思うんですが、もうそれすらも危うくなっているという現状をもう一度認識していただいた方が宜しいのではないかと考えております。

医師確保の問題ですが、先ほど話したように、我々もずっと医師の確保について努力してきた訳ですけども、医師がどうして地方に来ないかという話を前回もしましたが、もう全て医師だけではなくて、東京への一極集中という問題があります。前回、国光議員が来てお話をされていたかと思うんですけども、全てが一極集中でみんな東京から出たがらないということもあります。しかし、その中でも研修ができるとかスキルが磨けるとかの病院があれば、ある程度の若いお医者さんを集めることができるのではないかなと考

ています。従って、医師確保のまず第一、それが全てではないと思うんですけども、中核病院、ある程度のスキルの積める中核病院の整備が是非必要であると考えてます。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。それでは、お隣の島田市長から、お願いしたいと思いません。

島田委員

はい、それでは皆さん、こんばんは。小美玉市でございます。本日は第3回目の石岡地域市民医療懇談会ということでありますけれども、これまでの懇談会で貴重なお話をたくさん聞くことができました。大変勉強になりました。ありがとうございます。

石岡地域をとりまく医療の現状でございますが、いまさら私から申すまでもなく、皆様ご存じの通りでございます。大変厳しい状況と言わざるを得ないという状況でございます。なぜかと言いますと、出産ができる医療機関がないこと、さらに小児科のお医者さんが少ないこと、緊急診療は平日行われていないということ、そして緊急診療に対応する医師への負担が大きいなど、課題が山積みであるというような状況でございます。

小美玉市といたしましては、これまで病院群の輪番制、在宅当番、緊急診療、小美玉市医療センターの運営、土浦協同病院の新築移転への補助、水戸市の医師会看護学院校舎の建設への補助、そして先ほど話がありましたように寄附講座、定住自立圏医療部会での様々な医療事業への参加といった医療施策を実施してきた訳ではありますが、石岡地域を取り巻くこれらの課題について真摯に取り組まなくてはいけない段階にきていると感じておりま

す。

このような状況の中で医師会は異なりますけれども、小美玉市医療センターの役割は今後益々大きくなっていくと思います。現在、医療センターの存続を第一に考えて、水戸市にあります医療法人財団古宿会への民間移譲を進めているところでございまして、順調に工事が進展すれば約1年半後、平成32年4月頃には新築された病院で診療が開始をされる予定になっているところでございます。この病院で小児科や在宅医療など地域の要請に答えられる診療が行われるよう働きかけることができればと思っているところでございます。しかしながら、こうした地域医療の充実に向けた対策は、市単独あるいは一病院だけで実施していくには大変難しい状況であり、そして限界もある訳であります。小美玉市としても、石岡市、かすみがうら市と連携できる場所はしっかり連携し、お互いにこれらの問題を検討していかななくてはならないと思っておりますし、また更なる広域連携といった視点から、定住自立圏事業ということで水戸市を中心に、私どもは県央地域での様々な医療対策を引き続き実施していくということになっている訳であります。小児科・産科医療の充実をはじめ、緊急診療の二次救急、在宅医療など、どれも市民の皆さん方が安心して暮らしていくためには必要不可欠である訳であります。そして医療は命の問題でございまして、国・県にもしっかりバックアップをお願いし、私も誰もが安心して安全にいきいきと暮らせる社会を作っていかなければいけないということで、それを目指して進めている最中でございますので、皆さんとこういう場で約束をしながら、私の意見と小美玉市の考えということにさせていただきました。大変長くなりまして失礼いたしました。本日

は貴重な機会を与えていただいたことに誠にありがたく感謝申し上げます、また皆様のこれからのご協力を重ねてお願い申し上げます、私の考えというものを発表させていただきました。

ありがとうございました。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございました。今、広域連携という言葉がでましたけれども、もう一つお隣の坪井市長お願いしたいと思います。

坪井委員

改めまして皆さんこんばんは。かすみがうら市長の坪井でございます。前回も含めまして、私の感想というか考えを述べさせていただきたいと思います。まず、この懇談会を行うきっかけとなりましたのは、ご存知の通り石岡地域の産科、小児科の減少、あるいは医師の高齢化に伴う医師不足が深刻な問題になるとの石岡市長からの呼びかけによるものであります。これまで2回の懇談会を開催いたしまして、この地域の抱える医療問題について、立場の異なる様々な委員の皆様のお声を聴きながら、私なりの話をさせていただいたところでございます。

今回のテーマに基づきまして、私の考えをお話させていただきたいと思います。この懇談会でも頻繁に出てくる医師不足につきましてであります。厚生労働省の調査によりますと、医師の総数は減少しているのではなくて、毎年約4千人の医師が誕生しているということでございました。しかし、なぜ医師は増えているのに医師不足と言われるのかといったところを、我々はきちんと整理をして考える必要があるのではないかと考えております。

す。

これまでの医師に関する内容を振り返りますと 1970 年代初め、田中内閣の時代に医師不足を解消するため、一県一医大の構想を打ち出しまして、全ての県に医大が設置をされてきたというように言われております。その後、医療費が増加するといったような問題が浮上することによりまして、医療費削減のために医師の数を増やさない方が得策であるとして、医師数の抑制方針を 1982 年に閣議決定されたところであります。さらに 20 何年時を経ました、2004 年には新臨床研修制度におきまして、新卒の医師は自由に研修先の病院を選べるようになりました。前回の懇談会で柏木先生からお話ありましたように、これまで大学病院の医局の指示で、大学病院や系列の地方病院に派遣されていた医師たちが、それ以外の病院を選ぶケースが増えてきたと言われております。大学病院としましては貴重な戦力が減ってしまい、その補てんとして地方病院の医師を引き上げざるを得ず、おのずと地方病院に医師が減少する、そして医師不足が生じた地方病院の勤務医師に負担がかかりまして、結果的に医師の離職といった負の連鎖を招いたと感じているところであります。

このような点を踏まえまして、茨城県ではそういった状況を早々に察知し、医師確保対策として、補助制度の創設や寄附講座、各種事業を充実し、医師確保に努めていただいているところであります。このような観点から、私は茨城県が行っています医師確保の対策を支援するとともに、国に対しましてもこのような状況を踏まえた要望を行うことが重要でないかと考えているところであります。具体的には、臨床医は地方で積極的に経験するといったことや産科や小児科に対する医療報酬をアップするなど、優遇措置を講じること

によりまして、他の診療科目よりも割を良くし、医師の確保に努めるなども方法の一つではないかと考えているところでございます。受け皿となります医療機関の整備には時間がかかりますので、早急な対策として現在受け入れをできる病院で受け入れを行い、そこから一時的に地域内の医療機関に派遣してもらうといったことも必要なのではないかと思います。前回は懇談会に出席されております国光先生にもご指導を仰ぎながら、石岡地域のみではなくて茨城県全体で要望書を提出するなど、地道に行くことも重要ではないかと考えているところです。医師を育てるためには、最低10年といった年数が必要となります。このような点を踏まえまして、茨城県地域医療構想に基づきまして、医療圏内の枠内での対応、また地域を跨いだ広域的な運用も視野に入れることが大事だと考えております。

前回の懇談会でもお話をさせていただきましたが、当市は医療機関が少なく、また入院加療できる病院がなく大変苦慮してきたところであります。これまでも地道な努力を重ねてまいりましたが、石岡市医師会の先生方、あるいは土浦市医師会の先生方に大変お世話になってきたところであります。そのような中、土浦協同病院が移転新築されたことによりまして、病院がより身近な存在になってきまして、移転と同時に、市では健康づくりの協定をもって、予防事業に取り組んできたところでございます。生活習慣病予防をはじめとした健康づくり事業をよりいっそう推進し、疾病の予防にこれまで以上に努力していこうと考えております。10年先を見据えました際に、団塊の世代が後期高齢者になりますことは、遠い将来のことではなくて、すぐ訪れる問題であります。このようなことから重要な施策を自立支援や疾病の予防として考え、計画的に行動してまいりたいと考えておりま

す。

医師不足の問題解決のためには、石岡市と小美玉市と十分に連携を図りながら、国・県の指示を仰ぎながら今後に繋げてまいりたいと考えております。そういったことが私の考えでありますので宜しくお願いいたします。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。今、国・県の指示を仰ぎながらとありましたが、大きな計画のもと、地域医療を考えていかななくてはならないということだと思います。小美玉市、そしてかすみがうら市の考えが披露された訳ですけれど、石岡市はどうかということで、私は進行役なので岡野議長にお願いしたいと思います。

岡野委員

石岡市議会議長の岡野でございます。

今日で3回目になる訳ですけれども、医師不足、とりわけ産科・小児科というところが課題になっている訳ですが、これは人口減少が急速に進んでいく中で、それを抑制するためには、どうしてもこのふたつの科のお医者さんが必要だというようなこともあるのかと思いますけど、先ほど柏木先生から話がありましたように、ひとつは、東京への一極集中が問題になっていると思います。今年の市議会の議長会の県への要望の中で、県北のA市とB市が同じ地域医療の体制の充実ということで要望をしておりますが、A市については中核となる病院があつて、その病院をどう充実させるかということで茨城県の筑波大との連携の強化、そういったものを中心に、医師の確保を要望する要望書が出ていまして、一方、

同じ県北のB市ですが、ここには中核病院がないというところで、医師を確保したいという要望が出ていますが、先ほども話がありましたように一人前の医師になるには最低10年かかるということで、研修医などの前に、一人前になった医師を確保したいというのがB市の意向でありまして、やはり、まず医師を確保するには中核となる病院、そういったものを作り上げていくことがまず大事ではないかと思っております。石岡市におきましては、その辺のところを今後どう充実させていくのかということが大事ではないかと思っております。

それから、先ほど小美玉市長さん、かすみがうら市長さんから話がありましたように、広域連携という取組を、これもやはり人口減少の中で近隣の自治体と一緒にスクラムを組んで問題解決を図っていくということも、これからは必要になってくるのではないかと思っているところでございます。そのような広域連携、そして中核都市の再編も含めた建設、そういうことが求められているのかなと思っております。

市村委員

皆さん、こんばんは。小美玉市の議長の市村でございます。今回で3度目となりますが、石岡地域の市民医療懇談会に参加をさせていただき、石岡地域の医療をとりまく現状を勉強させていただきました。医療を取り巻く現状がとても厳しいものだという事は議会としても真剣に考えていかなければいけないと考えております。

先ほど島田市長からありましたように、小美玉市には市の基幹となる病院ということで、小美玉市の医療センターがあり、民間移譲を重要な施策として今進めているところでござ

います。小児科医師が少ないことや緊急診療の体制が弱いこと、訪問診療の問題、地域が抱える医療の問題は多々あります。将来的には、古宿会による新病院の運営により、現在抱えているこうした医療の問題がいくらか解決されるのではないかと期待をしているところです。議会としてもそのような市の施策を注意深く見守っているところです。

しかし他方では、産科・小児科の問題、医師の高齢化、開業医の減少など石岡地域が抱える問題があります。その問題の解決には、単に一病院の充実だけで成し遂げられるものではないと理解をしております。また医療を支援していくのに、市だけの努力で達成できるものではありません。国及び県でも医師の派遣や財政的な援助、地域医療を守るための施策をお願いしたいと考えております。議会としても、市の医療対策について、色々とバックアップしていかなければならないと感じました。この問題については、議会としても検討し、方法を考えていきたいと思っているところです。今回は地域医療を考える貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝しているところでございます。私ども小美玉市の議会としても、小美玉市の医療センターの在り方について、特別委員会を設置して検討してきた経過もでございます。医療センターの存続をどうしたらいいのか、最終的に民間移譲ということで今進んでいるところでございますので、やはりその問題は、大きな問題ということで、私どもも考えているところでございます。それと併せて、今回このような懇談会、貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝をしているところでございますので宜しくお願いしたいと思います。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。小美玉市の医療センターも併せて考えていかなければいけないと思います。続きまして、かすみがうら市の中根議長お願いします。

中根委員

皆さま、こんばんは。ただいまご紹介いただきました、かすみがうら市議会議長の中根でございます。ちょっと風邪をひいておりまして聞きづらいかも知れませんが、宜しくお願いしたいと思います。

10年後を見据えてということですが、私の考えを述べさせていただきます。現実的な問題といたしまして、全国的に産科医の数は出生率の低下とともに連動し、年々減り続けているのが現状でございます。産科医は赤ちゃんが産まれる前後を含め、夜間の呼び出しも頻繁な状況であることや平日や休日も関係なく常に体制を整えておく必要があること、さらに出産は母子ともに様々な危険が伴うということがあり、心身ともに負担が大きく大変な職種であると考えているところであります。日本の産婦人科の医療技術は、世界でも高水準ですから、誰もが無事出産でき、事故が起こることはほとんどないという意識が普通になっております。しかし、その反面、万一事故が起きた場合は、医師側の責任として訴訟に発展することが多く、出産に伴う訴訟が増加しているのも産科医が減少する要因とも言われております。また、子供の数が減っている現代、親は自分の子供をとっても大切に育てております。これは大変良いことだと思われませんが、我が子を思うあまり、医療現場のちょっとした言動や診察時の対応などに過敏なまでのクレームをつける場合が多々あります。こう言ったことから、産科や小児科は医療訴訟の可能性とモンスターペアレントから

のクレーム、さらに長時間勤務が加わり、この2科の医者数は減る一方だと言われております。

さいたま市の小児緊急では、勤務時間が長くきつい勤務といわれている小児救急の解決策としまして、100万人都市でありながらも、22時から朝6時までの深夜帯の小児救急対応を総合病院の一か所に集約し、小児科医の数を確保することにより解決したという事例もございます。また先月、9月12日に茨城県では深刻な医師不足への対策といたしまして、最優先で医師確保に取り組む必要がある県内5つの病院と4つの診療科を発表しました。そこにはハイリスクの分娩や小児救急も含まれております。近隣では土浦協同病院に産婦人科医3人の医師を確保するとのことでした。このような状況をみましても、早急に対応すべき内容としては、看護師・助産師などを増員し、医師の負担を軽減するなどの対策が必要でないかと考えているところです。長期的には、産科・小児科の診療報酬を引き上げることもやむを得ないと考えております。この場に、国光先生もいらしておりますので、こういった点も踏まえてご指導を仰ぎながら、私も誠心誠意地域の医療問題に取り組んでいきたいと考えておりますので宜しく申し上げます。

また、市長からもありましたように、一朝一夕に解決できるような問題ではないため、幹事会を中心に、有識者を加え、議論を重ねる必要があると思われまます。10年後の明るい医療を築くためにも、より良い方向性を導き出すために我々も努力してまいりたいと思ひます。以上で私のコメントといたします。ありがとうございました。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございました。

議会からのご意見でしたけれども、この辺で市民の代表方がお二人いらっしゃいますので、お二人からご意見をいただきたいと思えます。

三輪委員

小美玉市の三輪と申します。今回で3回になりますこの懇談会に参加させていただき、専門家のお医者様をはじめ、行政トップの市長さんや議長さんの貴重なお考えや説明をたくさんお聞きすることができました。また、関係者の皆様が、石岡地域の抱える様々な課題や困難な現状、先ほど会長さんのご挨拶の中に、非常ベルが鳴っておりますという文言がございました。そういう現状の中で、真正面からぶつかり、真剣にお取り組みいただいていることを認識することができました。また、医師会病院の休日診療、夜間診療、在宅診療などに時間を割いて従事くださるお医者様の多忙な現状と御苦勞も深く受け止めております。

そこで、これから述べます3つの報道記事から私は2つのことを提案させていただきたいと思えます。まず、報道の1つ目ですが、10月19日の茨城新聞の茨城高校のことです。医療分野で働きたい学生に、志を強く持ってもらうことを目的に外部連携講座を開設し、病院見学は勿論のこと、現役のドクター、OB・OGの方々から講話を聞くという企画です。今年度は1年生から3年生までの医師・歯科医師・薬剤師を希望する78人が登録し、年間10回の講座を開設しているということでした。

報道の2つ目は、同じく10月19日の茨城新聞でございませう。来春卒業される研修医の

みなさまが県内病院に過去もっと多い 169 人、充足率 74%が内定したそうです。そこで私が注目したことは、内定者 169 人には県内勤務を条件に修学資金を貸与される県の地域医療医師修学金の研修医 18 人が含まれているとのこと。茨城県の取組の成果の現れと思います。

報道の 3 つ目は、8 月 9 日の広報おみたまによるものです。小美玉市医療センターの敷地内に、2020 年 4 月 1 日を目途に新しい病院の開設を目指しているということです。先ほど市長さん、議長さんからお話があったかと思います。開院に先立ち、小美玉市が敷地の無償貸与や病院施設の建設に係る費用の一部、上限 15 億を支援しますという誠に先見の明のある情報でございました。

以上のことから、私は 2 つの提案をさせていただきたいと思います。提案の 1 つは困難なことは多々あるかと思いますが、医師確保のこと、緊急対応のことなど本当に大変かと思いますが、石岡市医師会病院、そして小美玉市医療センターの中に産科の開設をお願いしたいと思います。そして若い人たちが安心して子供が産める環境を整備してほしいと思います。提案の 2 つ目は医療に意欲や関心を持つ小中学生・高校生に早くからその道を広げていってはどうかということです。そして保護者の方々も地域の方々も一緒に参加してはどうでしょうか。地域医療を担う青少年育成事業です。講話を聞く医療体験をする今日は教育関係の方々もそして区長さんも地域の方々たくさんいらっしゃっていると思いますが、このシステム作りと手立てをお願いしたいと思います。以上 2 つを提案させていただきまして私の発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございました。素晴らしいご意見ありがとうございます。そして、石岡市民代表の見坂さんお願いします。

見坂委員

こんばんは、石岡市民代表の見坂と申します。宜しくお願ひいたします。石岡市の10年後の医療ということについて、私なりの意見を述べさせていただきたいと思います。少子高齢化となる世の中、これからは少子化対策並びに若者が市外から集まるような施策と高齢者に対する医療の充実が必要であると考えます。現在、石岡市では医師をはじめ医療従事者が非常に少ない中で、科ごとの分担を行いながら、医療に取り組んでくれていることと思います。しかし、私なりに調べてみると厚生労働省の地域医療構想においては科ごとの分担ではなく、高度急性期・急性期・回復期・慢性期それぞれの役割の病院が求められています。このため、急性期の病院を集約し、急性期医療を担う新規の病院をつくっていただくことが解決策として考えられると思います。その上で回復期・慢性期、在宅医療の医療機関の役割を行うべきだと考えます。新病院の建築は建築の雇用を生みます。医師や看護師、医療従事者その他、掃除・給食・警備などの雇用も生みます。病院が出来れば住宅やお店ができ、人々が集まり活気ある町づくりができるのではないのでしょうか。

そして、今回この懇談会において私が強くお話させていただきたいことは、私も4人の子を持つ母として、早急な産科の医療危機の解決を望みます。私は仕事で子育て世代のお母さま達にお会いすることが多くあります。その中でお話として出てくるのは、石岡市に

は産婦人科、お産をできる場所がない。そして、妊婦健診と出産できる場所が異なって不安である。2人目以降分娩時間が短くなり、病院へ行く時間への対応の不安、様々な意見が聞かれます。現在、石岡市には、産婦人科、分娩ができる病院が2か所閉鎖されています。石岡市の人口7万5千人に対して、分娩できる場所がないというところを今回皆様に危機として感じていただきたいと思います。解決策としては、助産師さんたちを集め、助産所を設け、そこで妊婦健診から産後ケアまで提供できるような施設をつくっても良いかと思います。正常な経過をたどる妊婦さんにはそこでお産ができること、そしてリスクを抱えた妊婦さんには病院と連携して安心してお産ができるシステムということも望まれます。連携先としましては、新病院が3市の産科婦人科分娩を集めて安心してお産ができるという機能がつくれれば、これからの若い世代の方々も安心して暮らせるのではないのでしょうか。

最後に長期的な医師確保としましては、市内出身者で医学部進学者に対し、奨学金制度を用い、貸与を受けた期間、石岡市の病院で従事していただくことが望まれます。しかし、臨床を学ぶ病院というものが石岡市にはなく、困難なことだとは思っております。しっかりとした受け皿をつくるだけでなく、市内出身者の従事者が臨床、そして教育を学べる制度を構築して、自分たちで石岡市の医療従事者を確保し、長期的な医療の充実を図ることがこれからの必要な課題ではないのでしょうか。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。一回りご意見をいただいた訳ですけれども、ここで会場からご意見をいただきたいと思えます。来賓でいらっしゃる医師でもある国光先生、今までのご意見を聞いて感想などをいただければお願いいたします。

国光衆議院議員

ありがとうございます。ご紹介預かりました衆議院議員の国光でございます。本日は市民会館で開催されてらっしゃって、前の会場からもう5倍ぐらいの広さで、こんなにたくさんの方が、石岡市、そして小美玉市、かすみがうら市をはじめ周辺地域からいらっしゃっていること、本当に市民の力で、この石岡地域市民医療懇談会を開催されて、本当に素晴らしいと思います。冒頭、柏木先生のご意見、私遅刻してお伺いできなかったのですが、今非常ベルが鳴っているとおっしゃったと伺っております。本当にみなさん、その通りであると私も確信をしております。私もずっと元々医師で、仕事柄、厚生労働省に長らくいまして、全国の産科、そしてまた救急医療の現場を見て回りましたけれども、一番危機感を私も思いますのは、石岡市が約7万5千人、小美玉市が約5万人、かすみがうら市が約4万人、人口がいらっしゃる訳です。合計すると約16万人となる訳ですが、先ほど市民代表の三輪委員、見坂委員がおっしゃったように一つも分娩ができる施設がない、これは調べてみると、全国では北海道に2か所ぐらいと、それから九州に1か所ぐらいとそれから北陸に1か所と、あとはこの地域、まさにこの地域しかない、非常に由々しき事態で、16万人いて一つも分娩できる施設がない訳です。勿論、土浦協同病院も友部の中央病院もありますけれども、あれは土浦市であったり笠間市であったりする訳でございます。やはり、

ハイリスクの分娩，例えば，早産で大変だとか，本当にお子さんが未熟児で大変だというところは，協同病院や中央病院で良いと思いますが，やはり身近でお産ができる施設を私もつくっていききたい，それは，今日お集まりの委員の先生方，進行をされていらっしゃる今泉市長，そしてまた，岡野議長からもありましたとおり，受け皿をしっかりとつくっていくということが大事だと思います。私も実は日々，東京や色々なところで，産科医の先生を探して，是非何とかこの石岡市の地に，また小美玉市，かすみがうら市の地に来ていただけないかとのお話をさせていただいておりますが，しっかりとその中で，国の支援として，予算そしてまた人の確保も頑張っていきたいと思っておりますし，また先ほど見坂委員がおっしゃった助産師さんの活用というのも今非常に全国的にそれに注目が集まっております。産科医がなかなかパツと来ることは難しいですので，一人来ても意味がありません。やっぱり3人いないとなかなか難しいです。これは私も実感しておりますけれども，3人の医師を集めるということは非常にやっぱり難しい。あと県の修学資金の貸与者も今後いっぱいできますから，それで何とか来ていただく方がいれば良いですけれども，恐らく数年は先になってしまうと思います。そういう中で助産師さんの活用，是非スキルフルで安心安全な出産ができる助産師さんにしっかりと頑張ってもらいながら，この地域の産科医療をはじめ救急医療をお支えすることが出来たらと思います。私も国の立場で，しっかりと法整備や予算の確保に頑張っていければと思っておりますので，ご指名ありがとうございます。恐縮でございます。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。是非とも国とのパイプとなっていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いいたします。そして、県との関係もあると思えます。県のパイプ役と言えば、戸井田先生がみえています。ちょっと一言お願いしたいと思えます。

戸井田県議会議員

皆さん、改めましてこんばんは。ただいま急にご指名いただきましたが、皆さんの温かいご支援をいただきながら県政壇上に送りだしていただいております県議会議員の戸井田和之であります。この市民医療懇談会にはじめて私出席させていただいたんですが、大変素晴らしい取り組みでありまして、パネラーのみなさまのご意見を聞きながら、もっともだなどと思っている次第です。先ほど来、パネラーのみなさまから県や国の支援（バックアップ）が一番大切だと言われておりまして、私共それは身につまされる思いでございまして、毎日一生懸命頑張っておる訳でございまして。

去年から新しく大井川知事が誕生しまして、やはり一番取り組まなくてはならないのは、医師不足の解消だということで、今年の2月になりますが、30年度の予算編成を決めるときに、茨城県の医師不足緊急対策行動宣言をされた訳であります。その中で私どもが驚いたのは、なんと22億7643万だったと思えますが、様々な5つのチャレンジ、今までにないような医師不足への対応を図っていくということで私どもこの予算案を見たとき、きちんとこれをやっていくのには、みんなとともにやっていかなくちゃいけないと思えました。特に思ったのが、県民の皆さま、そしてここは石岡地域でありますから、各市においでの市民の皆さまの力を持ちながら、一緒になってこの医師不足を解消するには頑張ってい

かなければ、決して他人事ではないんですね。医師不足というのは、子供たちから高齢者まで一番身近であるものですから頑張っていかななくてはならないと思います。

また、この石岡地域の中で、まだ結果は出てないと思いますが、受け皿づくりが私も大事だと思っております。現在、筑西市と桜川市で市民病院と総合病院が再編成されまして、新たな病院が出来ました。200床以上ということで大変市民の方々喜んでおられまして、これで安心して医療が受けられるのかなという声を聞いておりますので、是非ともまだ構想が出来ていない状況ではありますが、そういう構想が出来た場合には、私共、今日は国光先生もおいでになっておりますが、国と県、全力を持ってバックアップしていきたいとそう感じておりますので、皆さんとともに住みよい町、安心して暮らせる町を作れるように頑張りますので、どうぞ宜しく申し上げまして、私の一言とさせていただきます。ありがとうございます。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。宜しく願いいたします。マイクをこちらに戻して、柏木先生、今までの総括的な意見をお願いします。

柏木委員

パネラーの方々、そして会場の方々から色々意見をいただきました。第1回、第2回、そしてこの第3回の懇談会を通して、広く今の石岡地域の医療の現状については理解をいただけたかなと思っています。その中で、医師不足の解決のためには、きちんとした受け皿が必要であるとのこと意見たくさんいただきました。私もその通りだと思います。とにか

く何か今この状態で、医師会病院に産婦人科をとの意見もありましたが、産婦人科を呼ぶにしましても、それをみるための小児科が必要だったり、様々なものがが必要です。ただもう設備も古い、今の医師会病院に新たな診療科をつくり、また、設備を入れることもちょっと現実的には不可能と思われます。お医者さんと呼んできちんと教育するシステム、当然大学などと連携する必要があると思いますけれども、若いお医者さんが学んで、ここで働いて良かったと思えるような病院、受け皿をつくるのがまず一番必要ではないかなと思います。

議長：今泉委員

はい、ありがとうございます。受け皿づくりということですが、今度は順番特になく、ご自由に発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

岡野委員

今、柏木先生の方から、受け皿づくりという話がありまして、これはすぐに受け皿づくりといっても、やはり検討する期間が必要じゃないかと思っておまして、私としては、国や県、あるいは専門機関などから地域医療に詳しい委員さんなどを選んで、10年後を見据えた地域医療をどうするかを考える検討組織を立ち上げまして、1年間を目途に具体的な方策を策定すると、そのようなことを進めてはどうかと、その中で必要なのは広域連携の取組であります。国光先生から先ほどありましたが、3市を合わせるとかなりの人口になる訳でして、そういう中において産科がない、あるいは小児科もほとんどないという状況をどう打破するか、そして受け皿づくりをどうするか、財源も含めて既存の病院、医療

機関を含めて、再編を含めた受け皿づくりというものを考えていく必要があるのではないかと思います。以上です。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。ほかにご意見いかがでしょうか。なければ、会場から時間の関係で3人ほど、ご質問ご意見頂戴したいと思いますがいかがでしょうか。少々お待ちください。

傍聴者1（石岡市東光台在住,亀井様）

今日初めて医療懇談会に出させていただいたんですけど、確かに私たちも現実には、先生がいらっしゃらない、大変な時期なんだと非常ベルが鳴っているということが分かったんですね。ただ委員の先生方の、市民の方は別として、話を聞いていまして、大変だということはあるんですけども、じゃあ現実には非常ベルが鳴っていて、命の問題なんですね。それにも関わらず、3市が合同で何かを考えればいい、幹事会をもってやればいいと、すごく流れがゆっくりしているように感じるんですけども、もう少し緊張感をもってやっていただきたい。本当に産婦人科の話も、小児科医の話も出ましたけれども、今子育てをしているお母さん方、今現実にはどうしようかというのが本当なんです。自分のご家族を考えてみてください。奥さんのことを考えてみてください。若い時に今から赤ちゃんを産もうとしたときにどうなるのかということを考えてみてください。もう少し真剣に、柏木先生がおっしゃいましたけれども医師会の病院で産婦人科が新しくできるのか、そうじゃなく新しく、本当に3市でもって夢のある産婦人科医・小児科医の専門の医療棟ができて

も良いんじゃないかと思うんですけども、それに対して、思い切りお金を出してくれるような考えでやっていただきたいと思いますけれども、各市長さん方どのように考えますでしょうかお聞きしたいと思います。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。まず私からお答えしたいと思います。緊張感がないと感じられたということですが、私は自分なりに緊張感を持っているのですけれど、その中で、短期・中期・長期という形でこれを対応していきたいと考えております。短期については、今出産を控えている人とか、これから出産をする人をどうするかという部分だと思うんですけど、中期はもうちょっと長めの対応、長期とは受け皿づくりだと思うんですね。今目指しているのは対処療法だけでなく、根源的な10年先の地域医療をどうするかという部分だと思っています。短期的には今ない訳ですから、どうやって負担を軽くして妊産婦の方が病院に行けるかとか、そういう支援をする方策を考える。そういうことだと思います。支援というと補助金的なもので、最終的には補助金という形になるかもしれませんが、そういう手当をしていく、そういうことが短期的な緊急措置だと思います。本当に考えていかなければならないのは、中期・長期の部分で、それを3市で準備していくということだと思います。そのためには地域医療計画を立てて、受け皿づくりをどうしていくかということを専門の先生方のご意見を聞きながら、ゆっくりはできないので一年ぐらいで対応していきたいと思っています。並行して、地域医療計画これを連携した形をつくっていったら、付け焼刃ではない、総合的な将来の人口減を見据えたそういったものをつくっ

ていきたいと思っています。以上です。

島田委員

貴重な意見ありがとうございます。今、国も勿論でございますが、私ども地方自治体も地方創生総合戦略を立ち上げて人口減少に歯止めをかけなければいけないということで、進めている最中です。そういう中でそれぞれの自治体の特色を活かしながら、少子化の問題を取り組んでいこうということで、子供・子育て推進計画などを立てて、そういう中には医療体制の充実、当然進めていかなければいけないし、また産み育てやすい環境づくりということで色々施策は展開しているところでございます。その一番大事なところをここ3回、それぞれの皆さんの考えをまとめて、その課題を真摯に受け止めて推進していこうということで頑張っております。一日も早く結果が出るようにということで、これからそれぞれの皆さんの意見をいただいて、対策の推進班というか何かをつくって、専門分野で話を進めていくという体制がとれば、より早くスピーディに進むであろうと思います。しっかり頑張ってまいりますのでご理解のほど宜しくお願いします。

坪井委員

それでは一言ということですので、私の方から感想も含めまして思いを話させていただきます。まずもって、少し危機感が足りないのではないかとのご指摘をいただきまして、大変そのとおりに思っております。ただやっぱり、人にとって一番大事なものは健康であります。なおさら、これから産み育てる若いお母さんにとっては、特にそういった面では大事でありまして、そういったものについて、しっかり行政がサポートすることが大事だ

と思っています。ただこの医師不足を含めまして、色々な角度からお話が出ていますように、やはり行政だけではなく、医師会のご協力あるいは住民の皆さんのそういった熱意・支援、そういったもの、自助・共助・公助といいますけれども、そういったことによってですね、この地域で医療を向上させていく、そういった努力が必要かなと思っています。そういったことですぐできることもあるでしょうし、時間がかかることもあるでしょうから、そういったところを少し専門的な立場でご議論いただいて、そして私自身もここで少し勉強させてもらったような状況でございますので、一緒になって皆さんとともに安心できるような地域をつくっていきたいと思っているので宜しくお願いしたいと思います。以上でございます。

議長：今泉会長

宜しいでしょうか。

傍聴者 1

はい、各市長さんにお答えいただきありがとうございます。専門家の方の意見を聞きながら早く進めていただきたいと思います。確かに早急にということと、長期にわたってということは分けられるべきだと思いますので、その点は理解できます。ただ本当に市、国、県、3者一体となって、それから住民を巻き込んで、この茨城県のへそであるこの3市の真ん中に素晴らしいものをつくっていただきたい。それをお願いして終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。あとふたり、どなたかいらっしゃいませんか。

傍聴者2（石岡市三村在住の星野様）

石岡市にきて三十年が過ぎますが、私が思いますのは、今、世界中が外国人を受け入れて、しかも優良な人については国の在住を認める、そうことになりまして、今は本当に真剣にやるのであれば外国語を学んで、また外国の人に来てもらって日本語を学んでいただいて、地域に根差したとおっしゃりますが、今、スタンスを変える時が来ているんです。今、石岡はチャンスなんです。このスタンスを変える時期を見失わないように、今一生懸命やっていたら上手くいきます。今泉市長、頼りにしていますので宜しくお願いします。以上でございます。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。今のは、答えは宜しいですね。

傍聴者2

はい

議長：今泉会長

最後にもう一人。はい、お願いします。

傍聴者3（石岡市八郷地区在住 関口様）

先ほどから受け皿をつくるということをごみなさんおっしゃっていましたが、7・8年前でしたか、早稲田大学が医学部をつくるということで、茨城県に白羽の矢を立てました。その時、県議会は確か賛成ということで議決をしたと思います。そう記憶しております。

しかし、茨城県医師会がなぜか反対した。それで頓挫したと聞いております。折角、箱モノをつくってお医者さんを連れてきてくれるそういうチャンスをなぜ逃してしまったのか。今も水面下ではその話は進んでいるのかもしれませんが、その後どうなっているのか。私としては具体的な話をお伺いしたいと思っております。お願いします。

議長：今泉会長

えっと7・8年前に早稲田大学・・・

傍聴者3

確か2011年だったと思います。笠間の園芸試験場があった土地に誘致をする。石岡市この近辺ではないんですが、畜産試験場跡地に早稲田大学が医学部をつくりたいというそういう話がありました。

柏木委員

私もよくその話は記憶にはないんですけども、その当時医師不足解消のために、新設の医学部をつくろうという話が色々出ていたと思うんです。ただ将来の医師の数の需給をみると、医学部をつくることによって、医師が過剰になることは見えているということで、確か当時、新設は認められなかったと記憶しております。一昨年、特例的に医学部が2つできましたが、それによってストロー効果というか、そこでまたお医者さんがその大学に取られていなくなってしまうということもあります。なので、作れば医者が増えるかという問題でもないということ色々言われまして、別に県医師会が反対したからできなかつた訳ではないと思います。これは国全体の医師の需給をみて、医学部をつくる、

つくらないの判断を厚生労働省と文部科学省でしたと理解しております。国光先生宜しいですか。

傍聴者3

はい、ありがとうございます。折角、ここに厚生労働省ににらみの利く国光議員もいらっしやいますので、ひとつその辺、国にも働きかけて箱モノ、受け皿をつくっていただいて、医師不足も解消して行っていただきたいと思います。宜しく願いいたします。

議長：今泉会長

はい、ありがとうございます。以上で会場からの質問は終わりたいと思います。もう大分時間がせまってまいりました。パネラーのみなさん、どうでしょう。

市村委員

それでは医師会に質問させていただきたいんですが、八郷地区の医師不足は大きな問題として、前回の会議では80歳を超えた小児科の先生一人が診療を続けており、その方が最後の砦と伺いましたが、現実的に、今現在その方が地域の方すべてをまかなっているのでしょうか。まかなっていないとすれば、他の住民はどのようにしているのでしょうか。また、10年後の医師の状況を再確認したいんですが、ご子息であったり後継者であったり、今現在との状況とは医師会の方で把握しているのであれば教えていただきたいと思います。

柏木委員

はい。後継者に関しては、医師会で把握することもできないのでよく分かりません。今の八郷地区の病院は、先ほどお話ししたように、高齢の先生ともう少し若い先生もいらっ

しゃいますけど、多くの小児は今の医師会病院が受け持っているということであると思います。

議長：今泉会長

はい、あといかがでしょうか。では、ご意見がないようですので、この辺でまとめには
いりたいと思います。

今回3回目の懇談会では広域連携というお話が出ました。広域連携は横のつながり、か
すみがうら市、そして石岡市、小美玉市、3つの市がまずがっちりと連携を組むことが必
要と思います。さらに、国、県、市の縦の連携もそれも必要なことだと思います。幸い国
光先生、戸井田先生、国・県という流れもお約束していただきましたので、そういう縦と
横の連携がこれから本当に求められてくる時代だと思います。特に、石岡、かすみがうら、
小美玉、首長・議長がそろっておりますので、今後、この3つの市で協議を重ねながら、
受け皿づくりですとか、あるいは専門家の協議会そういったものをどういうふうに行って
いくか、まだまだ具体的ではありませんけれども、そういった10年後の地域医療をしっか
りと市民を支えていくような形で、環境づくりをもっていくということをやっていければ
と思いますが、島田市長、坪井市長いかがでしょう。

坪井委員

はい、そういったことで、いま会長からお話ありましたように、私ども連携ということ
を第一におきながら市民のみなさまのために努力していきたいと思っていますので宜しく
お願いします。

島田委員

はい、しっかり取り組んでまいりますので宜しくお願いします。

議長：今泉議長

そして医師会長もいらっしゃいますので、医師会とも連携を密にしてお願いしたいと思っています。

柏木委員

はい。私の方からも地域医療の充実とそして今の危機を救うためにも、各市と連携をしながら先ほどの亀井さんの話ではないですけど、スピード感をもってやらなければならないと思っています。どうしても行政の話になると、また懇談会をつくる、審議会をつくるということで、またあと何年もかかるのかと思うと、私自身も背筋が寒くなるような思いがしたので、多分亀井さんと同じだと思います。なので、発破をかけるという語弊がありますが、こちら協力しながら実現に向かって進んでいきたいと思っていますので、市民の皆さまの後押しも必要ですので宜しくご協力のほどお願いします。

議長：今泉会長

それでは皆さん。たいへん長時間に渡りありがとうございました。結論とまではいかないかもしれませんけれども、連携して3つの市ががっちり組んでこれからも協議を重ねて地域医療のために頑張っていきたいと思っていますので、どうか皆さん宜しくご支援のほどお願い申し上げましてまとめといたします。本日はどうもありがとうございました。

事務局：武井課長

ありがとうございました。

以上で第3回石岡地域市民医療懇談会を閉会いたします。

本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

なお、本日記入いただいたアンケート用紙につきましては、出口のところにあります回収箱へお願いいたします。